

いのちの 最終ライン

II

シリーズ 済生会の力 第12集

この灯りの下には、

いのちを支える医療と福祉があります。

C O N T E N T S

濟生会の力⑩ — いのちの最終ラインII

- 04 支援の中でいただいた「感謝のことば」(以下P27まで)
- 10 生活困窮者を支援する「無低」と「なでしこプラン」
- 12 MSW — 患者さんの人生に寄り添って伴走する存在
- 28 数字で見る日本の現状
- 29 全ての人が共に暮らせるまちをつくる!!
- 30 社会貢献は創立の原点 — 濟生会の活動
- 31 濟生会の生活困窮者支援事業利用者

「誰かに頼ることは嫌だった。
だけどまだ生きていたい」

これは、済生会の職員が

相談に来られた方から聞いたことばです。

済生会は、生活困窮者の救済を目的に創設され、

100年以上にわたって支援に力を尽くしています。

その中心的役割を果たしているのが、

メデイカル・ソーシャルワーカー

(MSW:医療社会福祉士)です。

MSWは、病の背景にある患者さんや

ご家族の生活にも目を配って

支援を行なうのが主な任務で、

済生会は日本で初めて昭和3年に

病院に配置しました。

——医療費支払いへの不安から10年間治療を中断。病状が悪化して相談に来院、職員のサポートで無料低額診療を申請、加えて生活保護も申請。前向きな発言も出るようになった(愛媛・今治病院)



病氣のことだけでなく、
ご家庭での暮らしぶりから収入・雇用など
さまざまな問題について相談を受け、
適切な方法を探って支援につなげていきます。
その、いのちの最終ラインを守る過程で、
「感謝のことば」をいただくことがあります。
MSWをはじめとする済生会の職員は、
そうしたことばを
何物にも代えがたいと思っています。
いただいた数々のことばを紹介していきます。



もう死んだほうがましかと思つた。
でも、生活できるようになったよ。

——多額の借金で住む家も失い、車上生活しながら通院していた男性。
自己破産、生活保護申請、アパート探しなどの手続きを終えて（新潟第二病院）

これで
屋根のある場所で眠れる。

——ホームレスだった70代の男性。医療費の無料低額診療制度（無低制度）で
減免を受け、その後、生活保護を申請。住民票も復活し、
退院後は養護老人ホームへの入所が決まって（富山病院）

手術してくれた先生は、
自分も「蘇生」してくれました。

凍死せずにすんだわ。

——足の手術が受けられず、自暴自棄になり、自宅に放火して服役していた
車椅子の男性。出所後すぐに入院・手術を受け、
自力歩行が可能になって（福井県済生会病院）

ホームレスの男性。高血圧症の治療を受ける。
本人と一緒に不動産屋へ行き、
住居を決めた際に（富山・高岡病院）

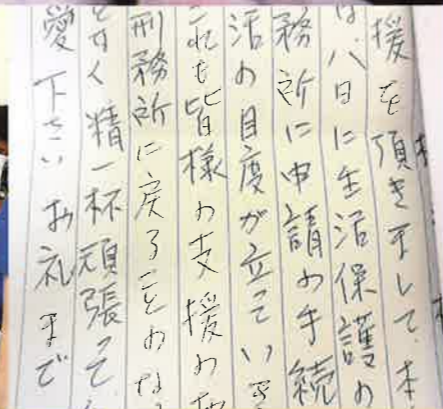
神奈川・湘南平塚病院のホームレス巡回診療



福岡総合病院ではホームレスにインフルエンザ予防接種を実施。健康相談や生活相談も



大阪府済生会の8病院が協働し、無料で検査や問診、生活指導などを行なう釜ヶ崎地区健診事業。毎年約800人が受診



富山県地域生活定着支援センターでは、5年間で1000人余りの出所者に、収監中から就労支援を実施。その人たちからの手紙

生きることにしたよ。

——手術を拒否していたホームレスの方の本当の思いを聞き、手術を決意してもらって（東京・中央病院）

**責めずに
優しく話を聞いてくれた。
涙が出ました。**

——ホームレスの男性。無収入だったため、体調が悪くても受診できずに我慢していたが、済生会を訪れるようになって（岡山済生会総合病院）



広島県社会福祉士会が路上生活者を対象に実施した「昼食 & 相談会」。呉病院、広島病院、特養たかね荘から職員が加わり、健診や足湯を行なった

横浜寿地区で日雇い労働者対象の無料健診。神奈川・静岡両県の済生会が協働して血圧測定や採血、胸部X線撮影などを実施

**仕事見つかりました！
あのままだったら
ホームレスに戻っていました。**

——右鼠径ヘルニアで仕事を退職し、アパートの家賃が払えずにいたが、無低制度で治療を受けて就職先も決まった（富山・高岡病院）

**別れても
いついつまでも お達者で**

——路上生活者の方。退院の際、涙を浮かべながら
5・7・5の句を渡してくれた
（東京・中央病院）

話を聞いてくれるのは、
あんなだけだったよ。

公園のトイレで倒れていて救急搬送された70代男性。
初めて身の上話ができ、安心して、と喜んで（佐賀・唐津病院）

湯に浸かったのなんて
いつぶりだろう。

——何十年も風呂に入っていないと話していた、ホームレスの男性。
支援を拒否していたが、介助を受けての入浴を終え
行政のケースワーカーに（東京・中央病院）



生活困窮者のための
済生会の支援事業

212万人が利用する「無低」と、
16万人が利用する「なでしこプラン」

済生会設立の目的は、生活に困っている人
たちを医療で救うことです。その根幹事業が、
経済的に困っている人たちの医療費を所得に
応じて無料、または減額する「無料低額診療
事業（無低）」。平成29年度は延べ212万人
が対象となりました。しかし、昭和27年に社
会福祉事業法（現・社会福祉法）で制定され
たこの事業では救い切れない新たな貧困が
次々と生まれてきています。

そこで済生会では、対象者をホームレス、

刑余者（刑務所等からの出所者）、障害者、
DV（家庭内暴力）の被害者、母子家庭、在
日外国人など広範囲に拡大し、積極的に現場
へ出向いて、訪問診療や健康診断、予防接種
等を無料で行なう、済生会困窮者支援事業
「なでしこプラン」を実施しています。ここ
らは延べ16万人が対象となりました。

の孤独死を防ぐ巡回など、多岐にわたる支援
活動も全国各地で行なっています。
これらの事業の最前線に立って活躍してい
るのが、メディカル・ソーシャルワーカー
（MSW）や医師・看護師などです。その過
程で、事業の対象者の方たちからたくさん
「感謝のことば」をいただきます。その一つ
ひとつが私たちの生きがいややりがいにつな
がっています。

私の話を親身になって聞いてくれる。
それがとてもありがたい。

少額な年金生活の70代女性。同居している息子から暴力を受け、
多くの機関に相談したが、自分は厄介者と感じていた。
無低制度で診療の際に相談室に立ち寄って（茨城・神栖済生会病院）



「みなさんから、悩みを率直に話してもらえるように。ことばや表情・しぐさに託された意図が、正しく感じ取れるように」——コミュ
ニケーション能力を磨くための研修を受ける済生会のMSWたち



私たちがMSWが笑顔をお届けします。



患者さんの人生に寄り添って伴走するのがMSWです。

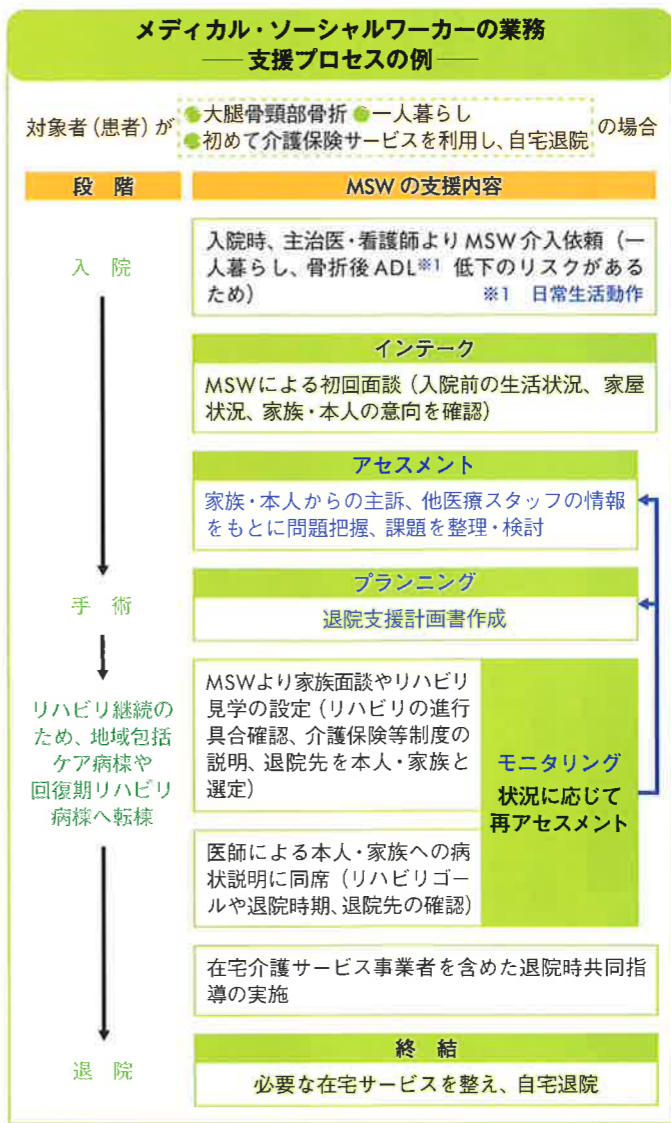
メディカル・ソーシャルワーカー

済生会湘南平塚病院のMSW（メディカル・ソーシャルワーカー）若林いずみさんに、MSWの役割や今後の目標を聞きました。若林さんは、神奈川県支部が合同で行なっている「横浜地区無料健康診断」を企画・運営する神奈川県済生会MSW部会の一員です。

昭和初期に済生会から始まったMSWという仕事

もともと、MSWは医療だけでは解決できない社会制度やシステムの問題を解決するために生まれました。昭和3年に芝病院（現在の東京・中央病院）に医療社会事業担当として配属された日本初のMSWである清水利子さんは、私の大学（日本女子大）の先輩に当たります。これは当時の社会の状況を考えると、女性としてすばらしいことだと思います。

現在のMSWは、急性期、リハビリ期、療養型など病院の種類によって、若干の違いはあると思いますが、基本的な立場としては、医療の専門職の中にあつて、社会福祉の視点から患者さんを支援していくところに意味があると思います。学生の頃に習ったのですが、医師たちが主に担当するのが「命」に関す



る部分、看護師さんたちが主に担当するのがその周りの「生活」の部分、そしてMSWが関わるのがさらにその周りの「人生」の部分だということなんです。現実的に、MSWに今期待されているのは、ベッドの稼働

率を高めることだったり、在院日数を短くすることだったりします。でも、「本来、MSWとは何をやる人？ そう、人生に関わるはず、言い換えるとその人の尊厳を守ることだよ」そういう意識は常に持つようにして

います。もちろん、済生会のMSWは、明治天皇の済生勅語にある「救済、つまり生活困窮者支援の揺るがぬ理念がバックボーンとなっています。他の組織から来た方からも、済生会はMSWの

立場がきちんと確立されていると驚かれます。無料低額診療事業を行なう場合には、MSWの配置確保やプライバシーを保つ面談室も準備しなければなりません。そういった法的に守られている部分も社会福祉法人とし

てあるのです。わたしたちMSWは、面談などを通じて患者さんたちの傍らを伴走しているようなものですよ。病院の中の人や患者さんとのつなぎ役として、必要な情報を理

解してもらって、その人らしい人生を自分自身で決められるようにお手伝いする黒子のようなものだと感じています。

MSW部会があり、なでしこプランの企画運営や各病院の課題などを共有しています。そこで静岡済生会の検診車利用の話や寿地区のホームレス支援団体・炊き出しの会からの医療支援要望の話が出て、無料健康診断ができるのではないかとということになったのです。



〈神奈川〉湘南平塚病院の「地域連携室」の前で。若林さんが所属する「地域連携室」は、病院を訪れる人々の目に留まりやすい場所にある



大阪府済生会の8病院とNPO法人・釜ヶ崎支援機構が協働して、平成21年から始めた釜ヶ崎地区健診事業

大阪・釜ヶ崎地区の無料健診事業開始が契機に

無料健診事業を掲げる済生会のMSWとして取り組んでいるものに、なでしこプランの一端として平塚市と実施しているホームレス巡回相談のほか、「横浜地区無料健康診断」があります。

これは、済生会神奈川県病院にいた松野勝民さんが、実現に力を尽くされたものです。神奈川県済生会には、毎月1回5病院のMSWの代表者たちが集まる

もちろん、実現するためには細かい申請が必要で、交渉や手続きは大変なものでした。すごいなと思ったのは、各病院から医師、検査技師、看護師などが来てくれて分担を割り振るのでありますが、皆さん初見なのにサツとできるんですね。さすがです、驚きました。一つの目標を決めると、それに向かって行く力はやっぱり済生会はすばらしいです。その一員としてこの活動に参加できていることは、わたしにとっても大きな誇りです。

済生会が独自に養成している地域包括ケア連携士の研修に参加して感じたのは、地域ごとにニーズが異なるということ。見えにくい生活困窮者のニーズをどのように見つけ、その人たちの尊厳をどのように守れるか、MSWとして地域で何ができるかを考えていきたいと思っています。

私の分も、助けてくれるんですか？

——夫のがん治療のため、自らの治療を後回しにされていた70代の女性。
同一世帯であれば妻の医療費も免除となることを伝えると涙を流されて（奈良・中和病院）



栃木・宇都宮病院では長期療養者の就職支援を目的に、ハローワークと連携した出張相談事業を実施。院内のMSWが加わり、仕事と治療が両立できる解決方法を探る

長崎病院では、就学援助受給世帯への医療支援を実施。各小学校の関係者に向け、支援のPRも行なっている

医療費の不安が無くなって、手術も頑張れました。 これがなかったら死ぬしかなかった。

——医療費の支払いが困難で入院・手術を拒否していた40代女性。
無低制度で手術を終えて（山形済生病院）

本当は治療を受けたかった。

——自営業の夫と二人の子どもを持つ40代の女性。
リウマチの治療を医師に勧められていたが、経済的理由で断っていた。
無低制度の適用で治療が開始できた（京都府病院）

私は絶対済生会じゃなきゃだめ。 もう治療をやめたりは絶対しない。

——金銭面で不安があり治療を中断していたが、無低制度の話をする、
ぜひともお願いしたい、と。感謝の気持ちを持たれながら亡くなられた
（熊本病院）

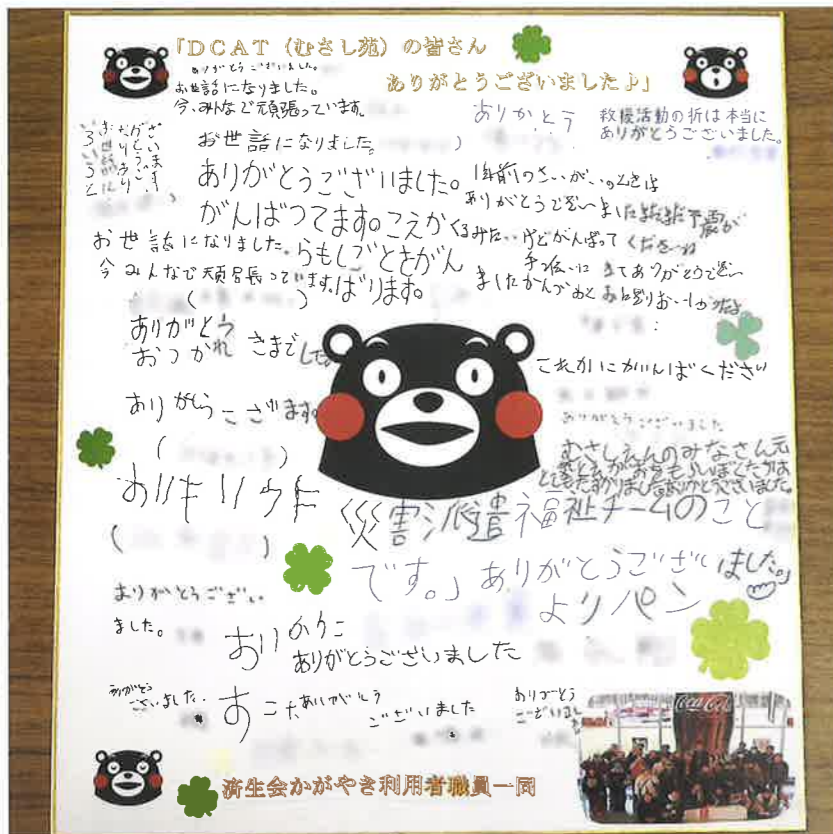
何をお返しすればいいですか？

——自分で治療費が払えなくなったら
治療を中断して死ぬと言っていた乳がんの女性。
無低制度の適用となり、涙ぐんで感激された（奈良・中和病院）

勇気を出して相談に来て 本当によかった。

——家族がない40代女性。病気のため就職できず、
貯金を崩しながら生活していた（愛媛・今治病院）





済生会では、大規模な災害が発生した際には独自にDCATを編成・派遣している。【右上】は熊本地震で被災したグループホームの利用者と、出動したDCAT【左と右下】は熊本地震で被災した熊本福祉センターの利用者から、むさし苑(福岡)のDCATに届いたお礼の写真と寄せ書き

かんづめとおにぎり おいしかったよ。

— 熊本地震で支援してくれたDCAT(災害派遣福祉チーム)に、1年後届いた障害者みんなからの手紙(熊本福祉センター)

無料なのでとても助かる。

— 知的障害者手帳所持者。家庭に事情があり、経済的に困窮していたため通院も含めてサポート(埼玉・川口総合病院)

済生会ハーモニーは、重症心身障害者が毎日通ってくる事業所で、全国で初めて特養に併設されたB型通園モデル事業として、特養ふじの里に開設



障害者の就労継続支援のため、製パン・製菓を行なっている熊本・ほほえみの「パン工房ふわり」。ギフトボックスも好評



知的障害を持つ娘と二人暮らしの認知症の高齢女性。無低制度を利用して、親子で外来受診が可能となった。母親ががんで入退院を繰り返して、飯塚嘉穂病院で看取った(福岡・飯塚嘉穂病院)

最期まで、お世話になりました。



東日本大震災復興支援のためオープンした岩手・陸前高田診療所。地域のコミュニティセンターとなることも目指している



岩手・岩泉病院は、台風で被災した町立安家(あつか)診療所での診察を再開した



同病院は、東日本大震災の被災地にある小本診療所も運営

やっと 光が見えてきました。

— 仕事中の痙攣発作や失禁頻回などで勤務先を解雇された40代男性の両親より。相談を受けた済生会の医師がMSWに連絡。両親が、専門病院の紹介・受診から入院・障害者雇用での就労支援などのプラン提案を受けた際に(埼玉・栗橋病院)

日本唯一の診療船「済生丸」で実習中の岡山済生会看護専門学校生。ドラマのモデルともなった済生丸は、離島への巡回診療を行なっている



九州北部豪雨の被害のため派遣された福岡総合病院のDMAT(災害派遣医療チーム)



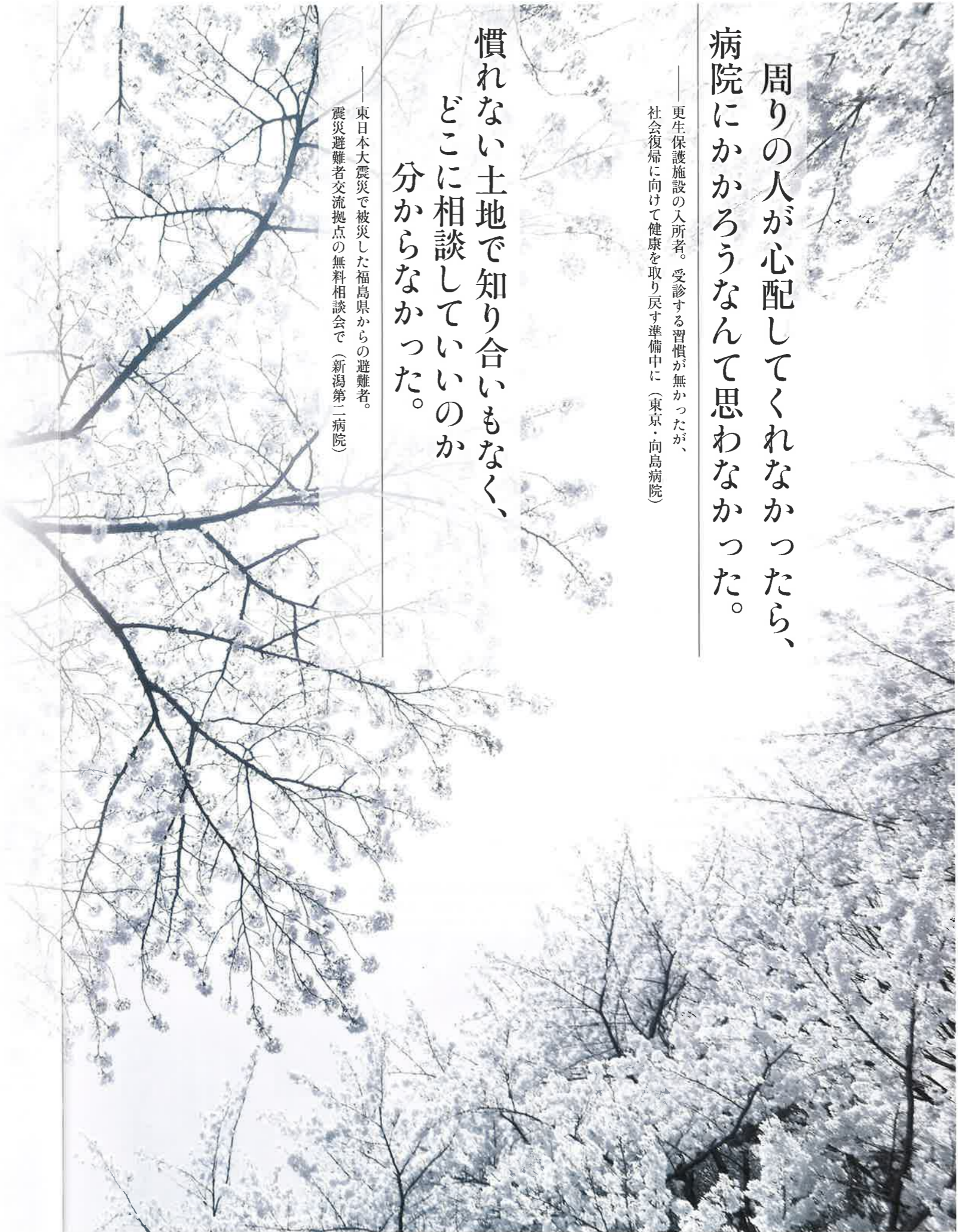
被災後、人に会うのが嫌だった。また地域の人の集まれる場所ができて良かった。台風による泥水の流入後、診療ができなかった町立診療所。施設復旧後、岩手・岩泉病院が医師の派遣を再開した。再開当日の地区の女性のこぼれ

周りの人が心配してくれなかったら、
病院にかかろうなんて思わなかった。

——更生保護施設の入所者。受診する習慣が無かったが、
社会復帰に向けて健康を取り戻す準備中に（東京・向島病院）

慣れない土地で知り合いもなく、
どこに相談していいのか
分からなかった。

——東日本大震災で被災した福島県からの避難者。
震災避難者交流拠点の無料相談会で（新潟第二病院）



一人で頑張ってきて、きつかった。

あなたに会えて
人に頼ってもいいんだって
思えました。

——非正規雇用で働くシングルマザー。夫と死別し、
一人で子供を育ててきたが、
糖尿病の治療が高額で困っていたところ、無低制度を知り
安心して（福岡・飯塚嘉穂病院）



兵庫県支部が神戸市の団地に開設した高齢者向け相談所「なでしこ暮楽部」では、職員が昼間常駐し、孤独死を防ぐため団地を巡回し話し相手になったりしている



熊本県地域生活定着支援センターは、熊本地震発生後、支援対象者へ生活物資を届けて回った



済生会の施設では、認知症患者と地域住民が集う認知症カフェを開催。写真は北海道・小樽市南部地域包括支援センター

ここに来て話を聞いてもらおうと、
いつも心がすーっと
軽くなるの。

前の治療費も払ってないのに、
診てもらっても
いいんですか？

——認知症の夫を持つ老老介護の妻。年金収入でぎりぎりの生活をおくり、
無低制度を利用（埼玉・川口総合病院）

——無年金の60代の男性。脳梗塞を発症したが、未払いの医療費を気にして
すぐに受診せず我慢。その後、無低制度で入院することができて（富山病院）

安心して治療を続けられる。
気持ちも楽になった。

難病を患ったが、島しょ部からの受診は交通費の負担も重く、医療費支払いに困っていた患者さん。無低制度の適用を受けて(愛媛・今治病院)

なんでそげにまでいい具合にしてくれるだ。

電気・水道・トイレもない小屋で生活していたが緊急入院。脳梗塞で片麻痺が後遺症として残ったが、生活保護受給が確定。治療や今後の診療は無低制度の対象となり、無事退院した際に(鳥取・境港総合病院)

人生の再スタートも切れそうです。

糖尿病だったが、収入が少なく治療を断念。その後無低制度適用で治療を開始。血糖コントロールが可能となり、仕事を再開(奈良・中和病院)

右も左もわからない私たちに制度を教えていただいて、ありがとう。

医療費の支払いが困難なため手術を拒否していたが無低制度適用で手術が受けられた患者さんからのことば(熊本病院)

病院がこんなに温かい所とは思わなかった。

金銭面の悩みを職員が親身になって聞いてくれた。この病院にしてよかった、と飲みながら語った入院患者さんのことば(三重・明和病院)

君を見るとホッとするよ。

肺がん終末期の生活保護受給者の方から。呼吸困難が強く出た日、担当MSWが病室に伺った際にいただいたことば(東京・中央病院)



あなたは私らにとって神さんや。

生活苦の80代老夫婦。数万円の年金だけで妻の介護をする夫に無低制度よりも生活保護が良い、と勧めた際に。「知識がなく、誰も教えてくれなかつた」と感謝された(奈良病院)

私たちがMSWがお話をうかがいます



ここに来なかったら死んでた。

ホームレスの方が緊急搬送された際のことば(東京・中央病院)

無低が無かったら通院していなかった。払われへんもん。

低所得者の30代女性。糖尿合併症があり、無低制度の更新手続き中に(大阪・中津病院)

本当に信じてもいいのですね。家を失くしたら、刑務所にでも行こうと思ってた。

身元保証人が得られないため、年末も迫る中、アパートの更新ができず困っていた方。ケアセンターが緊急連絡先を引き受けることで更新がなかった時に(山口地域ケアセンターやすらぎ)

この病院が無かったら ワタシが行ける病院が無いよね。

—— 難民申請・特別在留申請中のパキスタン人。国保に加入できず、手術もできない状態が続いていた（埼玉・川口総合病院）

ようやく無事に 生まれてきてくれました。

—— 夫のDVから逃れて母子生活支援施設に入所した妊婦。赤ちゃんを抱きしめながらうれし涙とともに（新潟第二病院）



静岡済生会総合病院を会場として、市民団体と共同開催している「外国人のための無料健康相談と検診会」。平成29年は20カ国129人が受診



愛知県済生会リハビリテーション病院では、ブラジル人学校での健診を年1回実施



鳥取・老健はまかぜで実施している子ども食堂。対象はひとり親世帯、生活困窮者世帯の小学3～6年生の児童

「高校行ったほうが後悔しない」 職員の方がそう後押ししてくれて

—— 経済的事情により中学2年で児童養護施設に入園。進学か就職か悩んでいるとき、職員の言葉で進学を決意（静岡・川奈臨海学園）

無低のおかげで、 子どもと生きてゆける。

—— 仕事をかけもちしているが、生活費で精いっぱいの子家庭。子どもにあたることもあり、治療も投げやりになっていたが、無低制度が適用されて（福井県済生会病院）



埼玉・栗橋病院では毎年、薬物依存者のリハビリ施設（写真）や更正保護施設へ出張健診を実施



川奈臨海学園は、海に近く静かな環境にある児童養護施設。卒園者（美容師）が定期的に在園生の髪をカット



同乳児院の庭で行なわれた野菜の苗植え。野菜は職員と子どもたちが「手作りおやつ」に利用



東京・中央病院附属乳児院の「親子ふれあい会」

他に頼れる人がいない。どうか頼むよ。

——更生保護施設入所中に体調を崩して入院。入院費用や退所後の相談を受けて（山形済生病院）

去年の正月は刑務所でしたが、 今年は自宅で過ごせます。

——寝たきりの妻の介護をしていたが、窃盗により受刑した刑余者。高齢者ということでセンターの支援対象者となり、出所後の一人暮らしの支援を受けて（福井県地域生活定着支援センター）



富山県地域生活定着支援センターでは、引越しを手伝うなど、出所後自分で生活できるように支援

大分県地域生活定着支援センターが開いた独居生活中の高齢者3人と職員の花見会。トランプのババ抜きや、桜の下での散歩を楽しんだ

今のアパート、本当に気に入りました。 二度と刑務所には戻らないよう がんばります。

——知的障害がある刑余者。出所後の引受人、帰住先が無く、センターが生活支援を行なった。アパート入居後にかけてきた電話で（福井県地域生活定着支援センター）

頑張ることが恩返しです。

——収監が10回を超え、人生の半分以上を刑務所で過ごしてきた高齢刑余者。出所前から支援を行ない、出所後は生活保護を受給して生活することになった（富山県地域生活定着支援センター）



山口地域ケアセンターが、出所者を介護職員として採用するため、山口刑務所に出向いて面接。同センターは出所後の再犯防止として、受刑者に向けた介護職員初任者研修も行なっている

たくさんの人に 迷惑をかけました。

介護の勉強をして多くの人を笑顔にしたい。

——介護職員初任者研修課程を修了した受刑者が、面接官から介護職を希望した理由を聞かれて（山口地域ケアセンター）

先生を信じるわ。刑務所に戻らんでも ここで治してもらえるんやの。

——ホームレスの男性高齢者。親族と絶縁状態で「ただで治療してもらえ」と服役を繰り返していた。糖尿病で足が壊死し救急搬送されたが、手術を拒否。主治医との話し合い後に本人が言ったことば（福井県済生会病院）



済生会の施設では、保護観察対象者のボランティア活動を積極的に受け入れている。写真は新潟第二病院での車椅子の清掃

山口地域ケアセンターで介護職員として採用された二人は、更生保護施設に生活の基盤を置き、仮出所翌日から出勤

この事業のおかげで、 治療をする気になってくれました。

—— 横行結腸がんの56歳男性の妻より。家族は治療してほしいのに、失業中で無収入を気にして治療をためらっていた夫に、無低制度が適用されて（静岡済生会総合病院）

寂しくて寂しくて……。でもここに来ると、お友だちができる。

—— 生活保護で独居生活をおくる60代のミャンマー人。相談室に来室し、サロンに参加してもらった（埼玉・川口総合病院）



大阪・吹田特養高寿園は地域に開かれた施設を目指し、同訪問看護ステーションとともに、喫茶室で「くらしの相談室」や高齢者の「いきいきサロン」を開催

滋賀・居宅介護事業所なでしこが主催する「地域サロン」は、高齢者の引きこもりを防ぎ、介護する家族の負担を軽減

あの時は本当に助けてもらった。 無低がなければ生活が破綻していた。

—— 40代の乳がんの女性。放射線治療で仕事を休職・退職。社会保険制度の相談にのりながら支援を継続して（愛媛・今治病院）



福井県済生会病院による、がんの親を持つ子どもへのサポートプログラム。お絵かきや工作など遊びを通して、がんや親ががんであることに対する感情への対処を、学んでもらう

誰にも、お金の相談に のってもらえなかった。

—— 腎不全で就労できなくなり、無低制度の相談をした時に感激して（山形済生病院）

無低を卒業します。生活がたいへんな時、 医療費が無料になって助かりました。

—— 病気のため、仕事が見つからず、医療費の支払いが困難だった患者さん。無低制度を利用して就職にも成功。自信に満ちた笑顔とともに（東京・向島病院）

お金が無いので、治療をあきらめていた。

—— 80代の女性。手術を勧められたがお金が無く、年齢も年齢とあきらめかけていた。市役所の人から無低制度を紹介されて受診できて（福井県済生会病院）



福井県済生会病院の乳がん術後のリハビリ。同病院では、がん治療の早い時期からリハビリが組み込まれている

福井県済生会病院のがん相談支援センターでは、がんになっても働き続けられるよう様々な面からアドバイスしている



日雇い労働者を無料で健診する釜ヶ崎地区健診事業の際、済生会の障害者支援施設の利用者二人から、受診者に配る手づくりパンを渡される筆者（前列左）。この事業は毎年、NPO法人釜ヶ崎支援機構と大阪府済生会が協働で実施

済生会の新しい挑戦

全ての人が共に暮らせる まちをつくる!!

理事長 炭谷 茂

済生会は、明治天皇が生活に困窮して医療を受けられない人たちの生を濟いさおうと明治44年（1911）におつくりになり

ました。この精神が「済生の心」です。済生会の行なうすべての事業の根底に今も脈々と流れています。

の弱体化。情報化社会の進展によって薄いかかわりを求める社会心理の蔓延まよ、所得格差に伴う貧困層の増大などがあるのです。

年齢者、障害者、刑務所出所者、引きこもり、困窮児童などすべての人が対象です。提供するサービスも、本来の医療・介護・福祉の枠を越え、家族関係の調整から住宅、就労、学習など、地域の人が安心して暮らしていけるよう広範な分野にわたっています。

当時は生活困窮者といえ、経済的な問題が主でした。しかし、現代では様相がより複雑になっていきます。障害者や刑務所出所者の社会参加・復帰、部落差別、在日外国人へのヘイトに加え、高齢者の孤独死・無縁死や若年ホームレスの増加など新しい問題が次々に出現。その上に、医療、福祉、介護、生活、住居……と、多様な要素が絡み合っ

この困難な課題に立ち向かうのが「済生の心」です。平成23年、済生会は創立100周年を迎えたのを機に「創立の原点」を再確認。所得の少ない人に無料または低額で医療を行なう無料低額診療事業を中心に、孤独高齢者やホームレス、母子家庭、刑務所出所者など生活保護の網の目からこぼれた人々たちを対象に生活困窮者支援事業「なでしこプラン」を実施しました。な

その実現には、済生会の力だけでなく、行政、企業、NPO、ボランティア、自治会など各方面との協力が不可欠となります。このため、いろいろな団体との連携を担う「済生会地域包括ケア連携士」の養成を独自に始めました。今後、全国で500人誕生させる計画です。

簡単に言えば、かつては病院で病気が治った患者さんは家に帰ればよかつたのに、今は病気が治っても行くところがないという事です。その背景には、少子超高齢社会の到来、社会を支えていた血縁・地縁・企業縁

でしこは、済生会の紋章です。そして30年度からは活動をさらに拡大し、ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）を理念とした事業を展開しています。国が進める「地域包括ケアシステム」の対象は高齢者ですが、済生会の提唱するシステムは高

済生会は、患者さんの退院後の自立を支援するMSWを昭和3年、日本で初めて病院に置きました。その歴史を踏まえ、すべての人が安心して暮らせる「まちづくり」を目標に掲げ、取り組みを開始しました。

※ ソーシャルインクルージョン 全ての人がその一員として、排除されることなく人として生きてゆける社会

数字で見る日本の現状

2025年には
**75歳以上が
2,180万人**（推計値）に!
内閣府「平成29年版高齢社会白書」より

65歳以上の一人暮らし高齢者数
男性約192万人 女性約400万人
内閣府「平成29年版高齢社会白書」より

配偶者からの暴力(DV)の相談件数
106,367件
※配偶者暴力相談支援センターへの相談件数（平成28年度）
内閣府調べ

全国のホームレス数
5,534人
（平成29年1月現在）
厚生労働省「ホームレスの実態に関する全国調査（概数調査）」より

生活保護を受けている人の数
2,115,368人
（平成30年2月現在） 厚生労働省「生活保護の被保護者調査」より

**60歳以上の一人暮らしで
孤独死を切実に感じている人の割合**
45.4%
内閣府「平成29年版高齢社会白書」より

**東京23区の
65歳以上の孤独死の数**
3,179人
（平成28年） 東京都福祉保健局東京都監察医務院調べ

児童相談所で児童虐待の相談を受けた件数
122,578件
（平成28年度） 厚生労働省報道発表資料より

社会的養護を受けている児童数
47,776人

- 内訳は……
- 里親委託児童 4,534人
 - 児童養護施設入所児童 29,979人
 - 情緒障害児短期治療施設入所児童 1,235人
 - 児童自立支援施設（生活指導を要する児童の施設）入所児童 1,670人
 - 乳児院入所児童 3,147人
 - 母子生活支援施設入所児童 6,006人
 - ファミリーホーム（小規模住居型児童養育施設）委託児童 829人
 - 自立援助ホーム（義務教育を修了した20歳未満の児童を支援する共同生活住居）入居児童 376人
（平成25年2月現在） 厚生労働省「児童養護施設入所児童等調査」より

戻る場所が無いまま出所する受刑者数
約**5,700**人
（平成28年） 法務省「矯正統計年報」より

再犯時の無職率
72.1%
法務省「平成28年版犯罪白書」より

こうした現状と向き合いながら、
済生会は活動し続けています。

済生会の生活困窮者支援事業利用者（H29年度）

無料低額診療 212万人
なでしこプラン 16万人

無料低額診療事業

項目	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
無料低額患者および利用者等延数（人）		1,920,144	1,946,982	2,016,001	2,071,801	2,120,879

なでしこプラン（済生会生活困窮者支援事業）

支援内容 上段：事業数 下段：対象者数	平成29年度					平成28年度	平成29年度 対前年度 増減
	診療	健康診断	健康・医療相談	その他	合計		
1. ホームレス等	5	5	14	8	32	32	0
	12,874	982	666	37	14,559	19,150	△ 4,591
2. DV被害者等	5	3	4	1	13	14	△ 1
	96	36	173	60	365	640	△ 275
3. 障害者・高齢者	7	19	44	45	115	100	15
	9,149	4,338	18,138	40,893	72,518	69,517	3,001
4. 刑余者等	16	24	16	33	89	86	3
	2,275	1,145	411	10,231	14,062	13,924	138
5. 外国人	5	8	5	6	24	20	4
	216	687	89	2,758	3,750	3,528	222
6. 母子児童	3	4	6	9	22	23	△ 1
	264	344	282	4,516	5,406	5,020	386
7. その他（住民等）	7	3	32	35	77	73	4
	8,922	4,138	5,707	30,637	49,404	44,506	4,898
事業数（計）	48	66	121	137	372	348	24
支援延数（計）	33,796	11,670	25,466	89,132	160,064	156,285	3,779 (2.4%増)

シリーズ 済生会の力

第12集

いのちの最終ラインII

平成30年 7月20日 第1版第1刷発行
平成30年 8月20日 第1版第2刷発行

発行 社会福祉法人 済生会
理事長 炭谷 茂

編集 広報室

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル21階 TEL: 03-3454-3311 (代)

URL: http://www.saiseikai.or.jp

社会貢献は

創立の原点

済生会は、地域の医療・保健・福祉を担っています。



明治天皇



秋篠宮殿下

- 44年 2月11日 明治天皇「済生勅語」を発し、お手元金150万円ご下賜
- 44年 5月30日 済生会の設立許可（創立記念日）
- 44年 8月21日 初代総裁に伏見宮貞愛親王殿下
- 44年 9月 9日 医務主管に北里柴三郎
- 1年10月24日 紋章として「なでしこ」を制定
- 5年 4月 1日 看護婦講習所開設認可
- 12年 4月 2日 第2代総裁に閑院宮載仁親王殿下
- 12年 9月 1日 関東大震災 臨時に巡回看護班編成
- 20年 8月21日 第3代総裁に高松宮宣仁親王殿下
- 26年 8月22日 医療法による公的医療機関に指定
- 27年 5月22日 社会福祉法人として認可
- 37年10月 7日 巡回診療船「済生丸」進水式
- 62年 4月21日 第4代総裁に高松宮宣仁親王妃喜久子殿下
- 12年 4月 3日 第5代総裁に三笠宮家の寛仁親王殿下
- 22年12月10日 本会のマスタープラン「第四次基本問題委員会報告」
- 23年 5月30日 創立100周年記念式典
天皇皇后両陛下ご臨席
- 25年 4月 1日 第6代総裁に秋篠宮殿下
- 26年 1月15日 4代目済生丸就航
- 29年 4月 1日 第13代会長に有馬朗人

創立以来の理念
「施薬救療による済生」

日本最大の
社会福祉法人として

済生会は明治天皇の「済生勅語」に基づき明治44年設立されました。社会に増大した困窮者に無償で医療を行ない、それによって生を済いのちおうというのです。各地に診療所を設け、貧困所帯に無料の特別診療券を配布して受診を促したほか、巡回診療班を編成して困窮者の多い地区を回り診察・保健指導を行いました。

第二次大戦後、済生会は財団法人から社会福祉法人に改組して再スタートを切りました。天皇のお志を忘れないため、「社会福祉法人 済生会」を現在も正式名称としています。

現在、第6代総裁に秋篠宮殿下を推戴し、会長は有馬朗人、理事長は炭谷茂が務めています。公的医療機関として指定されており、全国40都道府県で97の病院・診療所、約300の福祉施設等（平成29年度）を運営し、約5万9000人が働く日本最大の社会福祉法人です。平成29年度は、生活困窮者212万人を含め延べ2500万人以上が本会を利用されました。

地域の方々の目線に立って、皆さまに最適な医療・保健・福祉を総合的に提供することが、われわれの最大の使命だと考えています。



露にふす 末野の小草 いかにと
あさ夕かかる わがこころかな

——生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人は
いないだろうか、いつも気にかけて仕方がない——
初代総裁・伏見宮貞愛親王殿下は明治45年、本会事業の
精神を野の撫子なでしこに託して歌にお詠みになりました。その
御心を、いつの世にも忘れないようにと、撫子の花に露
をあしらった紋章にして大正元年から用いています。

Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

社会福祉法人 恩賜財団 済生会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル21階
TEL: 03-3454-3311 (代)
E-mail: headoffice@saiseikai.or.jp